

建設産業における ワーク・ライフ・バランス  
の実現にむけて

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

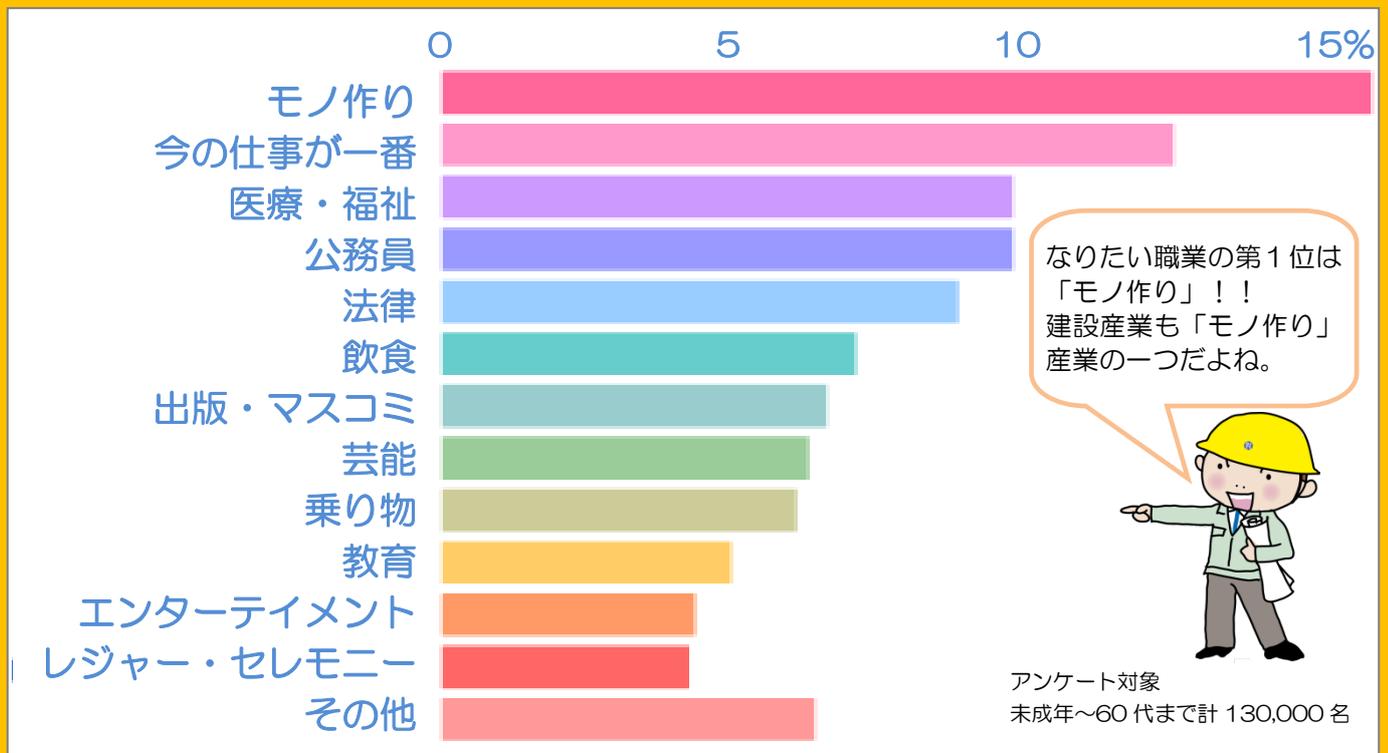


カエル! ジャパン  
Change! JPN

# R48<sup>週 休</sup> ROADMAP

[アールよんぱち] 2012.7.9 No.12

大人になってみて、今だから思う、  
なりたい職業はなんですか？



(出典元: NTT ナビスペース株式会社 ナビリサーチ調べ)

産業外への働きかけ

建設産業を身近に感じてほしい

## 科学ライブショー「Eバー」

労働条件

建設専門三紙に全面広告

## 土よう日を休もう。

産業政策

発注者へのアプローチ

## 発注者・受注者間における 建設業法令遵守ガイドライン

次号予告

■統一土曜閉所

## 2012年6月土閉結果

- 提言活動
- コラム

お知らせ

「Roadmap48」とは

建築工事の4週8休(週休2日制)での工期設定の実現や、公共工事における労働条件向上と諸課題の解決にむけた提言活動など、日建協の活動を組合員の皆さんに知っていただくための広報誌です。

①組合活動の資料として、②職場での情報交換の材料としてご活用ください。

- 次号の予定は変更する場合があります。
- この広報誌は日建協ホームページからダウンロードできます。

<http://www.nikkenkyo.jp>

NIKKENKYO NEWSをご覧ください。

日建協

# 科学ライブショー「ユニバース」



子ども達とその親に社会資本整備の重要性と建設産業の社会的役割を伝えたいと、日建協では科学技術館で開催される科学ライブショー「ユニバース」に参加している。今年度は2月に建設業界団体が開催した「建設フェスタ」に合わせ実施した。

「くらしを支える建築のしごと」と題し、衛星写真で上空から見た構造物を当てるクイズや日々の暮らしを支えるインフラの重要性と、地震や集中豪雨などから生命を守る建設のしごとを分かりやすく紹介しました。また、昨年の東日本大震災の復旧に尽力する姿も伝え、なかなか報道されにくい建設産業が担う役割の大切さを身近に感じてもらえた。

会場は子供たちの笑い声や、映像に食い入り、隣のご両親に質問をする姿がとても印象的だった。

とかく、「悪いイメージ」のみが報道されてしまいがちな建設産業だが、建設産業の魅力を正しく知ってもらうことはとても大切だ。

日建協は建設産業内だけではなく、科学ライブショー「ユニバース」をつうじて建設産業外にも、建設産業の魅力を伝えていく。

## ・科学ライブショー「ユニバース」

財団法人日本科学技術振興財団が運営する科学技術館で最新の科学の話題を紹介するショーで、毎週土曜日の午後開催している。日建協は2007年よりゲストとして出演し、社会資本の重要と建設産業の社会的役割を、子どもたちとその家族に伝える。

## 産業政策

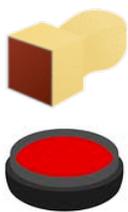
### 発注者へのアプローチ

# 発注者・受注者間における建設業法令遵守ガイドライン

日建協では、民間建築工事の『4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定』の実現にむけて活動を行っている。平成23年8月に国交省から「発注者・受注者間における建設業法令遵守ガイドライン」(以下ガイドライン)が公表された。日建協では、このガイドラインを活用することによって組合員の労働時間の短縮につながることを期待している。

ガイドラインでは「両者(発注者・受注者)の間の契約の適正化を図ることは、元請下請間の契約を含む建設業における契約全体について当事者が対等な立場に立って、それぞれの責任と役割の分担を明確化することを促進するとともに、適正な施工の確保にも資するものであり、ひいては発注者等の最終消費者の利益につながる」とある。

また、工期設定の留意点として、「公共工事については、発注者が入札告示等において、契約に盛り込む予定の工期を明示することが一般的であるが、発注者においては、適正な予定工期を検討することが必要」とある。工期は発注者と受注者との合意により決められるが、**ガイドライン**では、**まず発注者が適正な予定工期を検討することが必要**とし、適正な予定工期の例で公共工事の工事設定が挙げられている。また、「**受注者に過度な義務や負担を課す片務的な内容による契約を行わないことが必要**」とある。



## 労働条件

### 建設専門三紙に全面広告

# 「土よう日を休もう。」



日建協では、建設業で働く私たちの思いを、建設産業に携わる多くの方々に理解していただけるように、

建設専門三紙(建設通信新聞・建設工業新聞・建設産業新聞の各紙)に意見広告を打ち出している。

※6月8日、建設専門三紙に掲載された全面広告。「土よう日を休もう」の文字は日建協図画コンクールの応募作品で構成されている

今年度は、統一土曜閉所日前日の6月8日、意見広告がカラーで大きく掲載した。今年のテーマは『土曜日を休もう』。その文字には、子供たちが想いを込めて描いた「家族と休みの日にしたいこと」の図画を使用した。私たちが取り巻く環境は、厳しい工期設定に加え、東日本大震災の影響など土曜日の作業所閉所が難しい状況だ。毎週では無くとも、家族の思いにこたえ、安心して働ける作業環境を実現したい。土曜日が休める建設産業にむかって、建設産業に携わる皆さんと取り組んでいきたい。